どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No.13

千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

ごあいさつ

千葉市長
松　井　　旭

Mayor of Chiba City
Asahi Matsui

千葉市動物公園は、昭和60年４月に一次開園をして以来、早いもので６年が経過しようとしています。

この間、昭和63年４月には二次開園をして施設の一層の充実を図り、今や市内外から多くの方々にご利用いただき大いに親しまれておりますこと、心から感謝申しあげる次第でございます。

一方、平成元年度から約二ケ年をかけて建設してまいりました遊園地がこのたび完成の運びとなり、いよいよ６月からオープンすることとなりました。

観覧車やティーカップ、ドリームドラゴンをはじめ、お子さまからお年寄りまでが楽しく過ごしてもらえるよう、様々な工夫をこらしております。

この遊園地の完成をもって、動物公園の全ての施設が整う訳ですが、私は今後とも、当公園が「動植物とふれあう市民の憩いの場」として多くの方々に愛されますよう、さらに努力して参る所存でございますので、皆様方におかれましても一層のご支援・ご協力をお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

目　次

表紙・観覧車…… 1
ごあいさつ…… 2
グラビア セイロンヤケイ…… 3
特集 ドリームワールド …… 4
写真コンクール…… 6
飼育レポート ボンテボック …… 7
動物公園日誌から…… 8
飼育よもやま話……10
健康管理センターから
平成３年度行事予定表……11

表紙の説明

観　覧　車

モンキーゾーンから観覧車を撮影したところです。

写真で見ると小さいようですが、観覧車のゴンドラは、直径1.5m高さ２mもあり、大人４人が楽に乗ることができます。

観覧車の最高部からは、市内が一望でき、天気がよければ、遠くには富士山や、筑波山も見ることができます。

１周するのに10分間かかる、地上50mの世界を十二分に楽しんでいただけるとおもいます。

動物飼育数

（平成３年１月31日現在）

哺乳類	75種	475点
鳥　類	95種	380点
爬虫類	4種	22点
両生類	1種	2点
魚　類	1種	2点
総　計	176種	881点

グラビア

セイロンヤケイ

Ceylon Jungle Fowl　　キジ目　キジ科

撮影・宮川　千尋

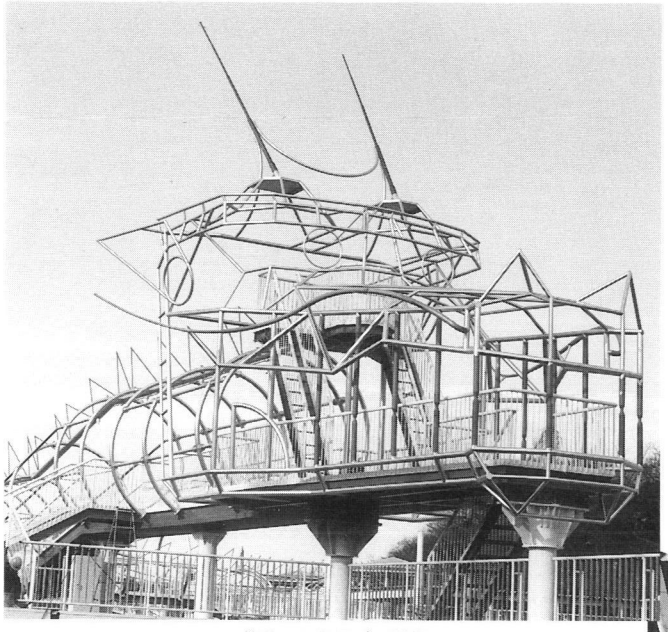
野鶏の仲間は4種で南アジアに広く分布していますが、この種はスリランカ(セイロン)にのみ分布する野鶏です。幾つかの特徴があり、とさかは中心が黄色で周囲が赤という変わった配色をしており、その声は鶏の鳴声とは異なり、むしろキジの鳴声に近いようです。

鳴声など幾つかの点で鶏と異なるため、鶏の祖先ではないとされていますが定かではありません。当園では4種の野鶏が家畜の原種ゾーンに展示してありますので比較してごらんください。　(宗近　功　Isao Munechika)

DREAM WORLD
Jun. 1991
Chiba Zoological Park

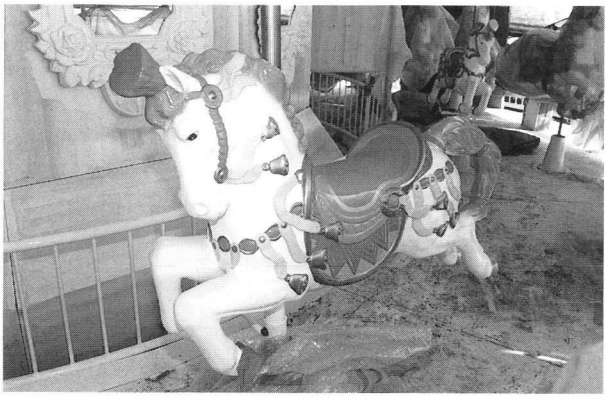
動物公園遊園地

ドリーム



ドリームドラゴン頭部

スカイジェットの軌道、下は手前からツイスターにモンスター



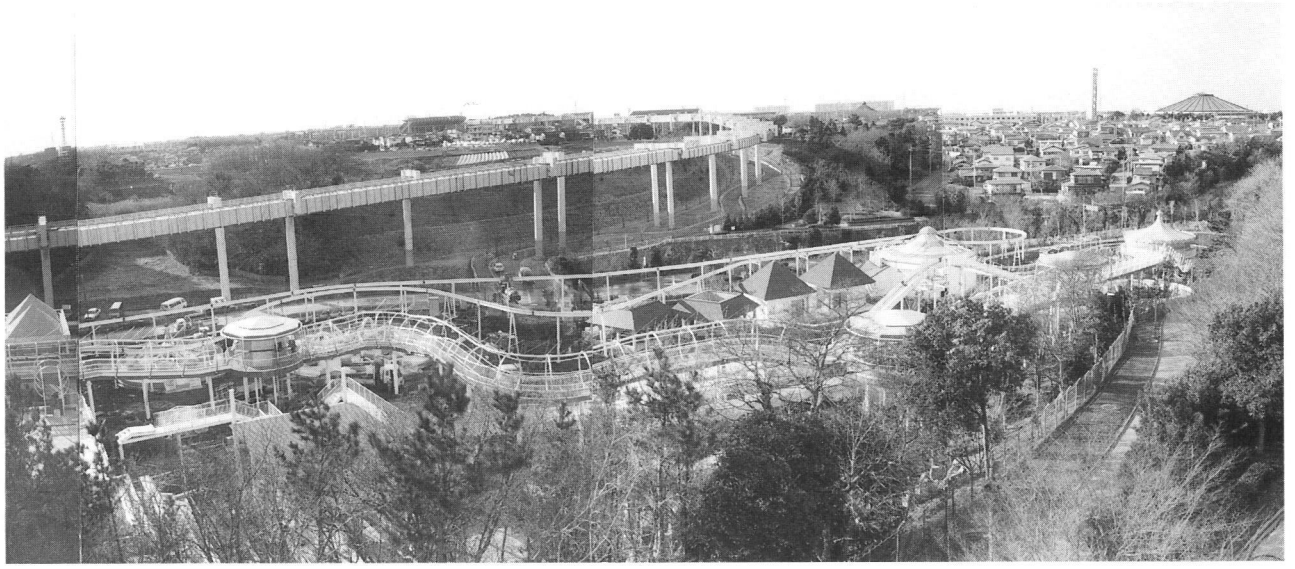
メリーゴーランド内部

このドリームワールドは、森のゾーン、水のゾーン花のゾーンに分けられ、それぞれのテーマに合った遊戯機械を四季折々の花と緑でつつんだ空間演出をほどこしており、お子さんから大人の方まで楽しんでいただける施設になっております。

現在、オープンに向け、関係者一同奮闘中です。6月には、皆様にご披露できる予定ですので、ご期待ください。　（本多　啓一　Keiichi Honda）

ティーカップ

ワールド 6月オープン！



ドリームワールド全景

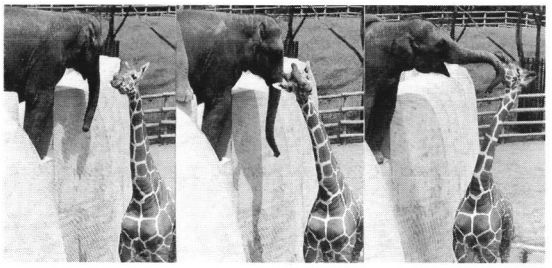
フラッシュダンス

スカイジェット

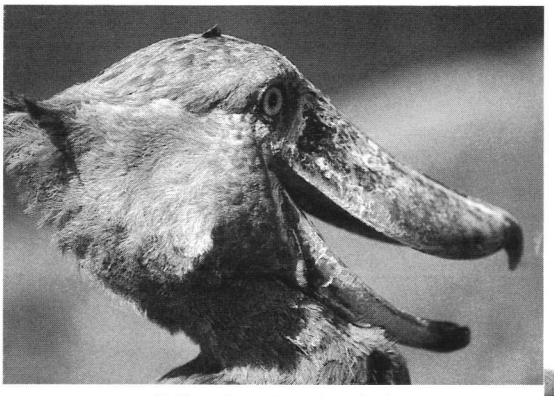
遊戯機械一覧表				
花のゾーン	観覧車	全高50m	中心直径45m	4人乗り×32台
	ティーカップ	回転直径13m		4人乗り×12台
	フラッシュダンス	回転直径16m	最大斜度89度	2人乗り×20台
森のゾーン	モンスター	回転直径11m	最大斜度30度	2人乗り×20台
	クラシックカー	走路長164m		4人乗り×10台
	スカイジェット	走路長386m	最高部5m	4人乗り×10台
	ツイスター	回転直径12m		4人乗り×10台
	バッテリーカー	走路面積410m²		2人乗り×3台、1人乗り×7台
	メリーゴーランド	回転直径13m		4人乗り×2台、1人乗り×30台
	キディーランド	幼児向けのコンビネーション遊戯施設		
水のゾーン	急流すべり	走路長275m、最大斜度30度		4人乗り×10台
	ドリームドラゴン	全長183m、様々な遊びの仕掛けを施した創造遊戯施設		

動物公園写真コンクール
入賞作品

POHOT CONTEST

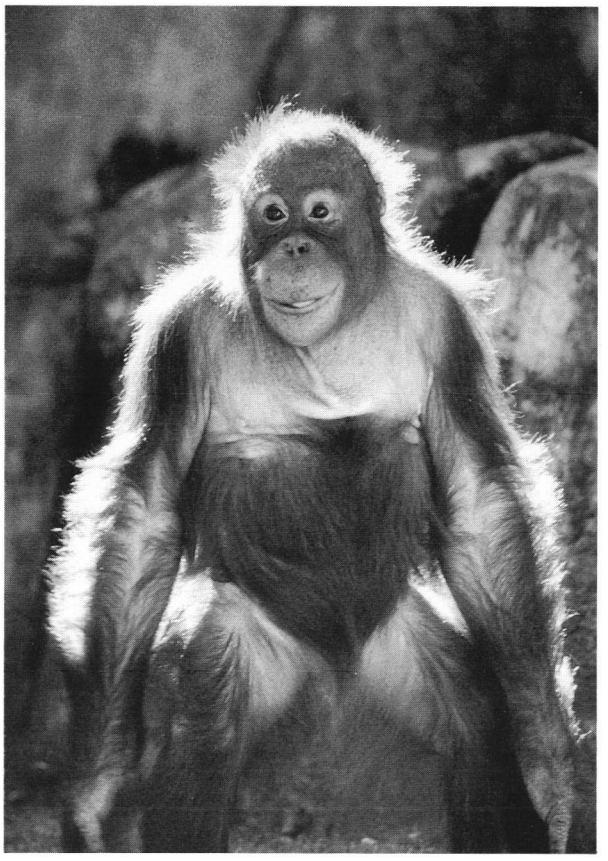


銀賞　ふれあい　笹原三雄



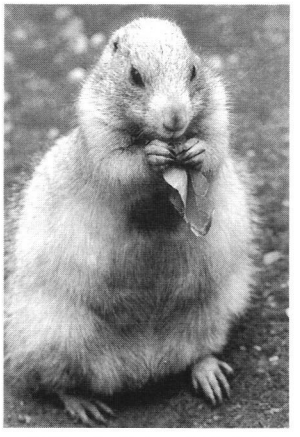
銀賞　笑い顔　中台友史

銅賞　抱擁　蔵田四朗



金賞　後光　木村暢宏

銅賞　母子　矢野哲郎



銅賞　食事中　山田英子

コンテストの応募数も多かった分だけ、作品の質も、一昨年に比べると一歩前進したように思えます。

審査では、写真の基礎となる“色と光”はもちろんのこと、動物園ならではの作品を意識して選ばせていただきました。無駄な物を極力、画面内から省きモデルをより強調した作品、作者の意志を反映した題材との組み合せも、コンテストでは大切な要素となります。

金賞に輝いた木村さんの「後光」は、色々と条件的にはむずかしい動物園で、身体のまわりの逆光と立ちポーズのオランウータンを神にみたてた意図と、構図や光のとらえ方で他を圧倒したということになります。

今年も、沢山の応募をお待ちしております。

動物・自然写真家　吉野　信

特別賞　やさしい亀さん人気者
兼坂利男

飼育レポート
Keeper's Report

ボンテボックの繁殖

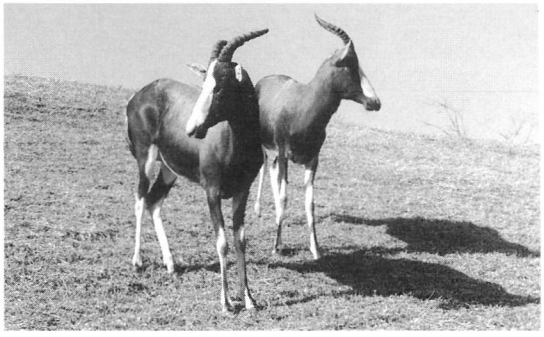
Breeding the Bontebok

1990年10月９日、ボンテボックの仔が初めて生まれました。

ボンテボックは南アフリカに住む中型のレイヨウの仲間です。かつてはレイヨウの仲間で一番数が多かったと言われていますが、前世紀に一度絶滅しかけ、現在野生では南アフリカの『ボンテボック国立公園』という保護区でしか見ることは出来ません。日本では初めてのお目見えです。

当園では1988年に雄雌各１頭をアメリカの動物園より導入しました。この時点で雄は４歳、雌は９ヶ月令でした。雌がまだ幼獣である為すぐには同居はさせませんでした。初めてペアリングをする時、雄が年上の場合時として雌を攻撃し、事故につながる場合があるからです。雌の性成熟までまだ１年以上あるので焦らず時間をかけて見合いをさせることにしました。

しばらくフェンス越しの見合いを続け、雌が１歳半になった1989年の３月に初めて放飼場で一緒にしました。雄は首を伸ばし鼻先を突きだし、雌の後を追いかける行動を取りました。しかし、雌はこの雄の追従を嫌がり角を振り立て逃げ回りました。この時点で特に



放飼場でペアリング中の雄と雌

トラブルは有りませんでしたが、あまり幼いうちに妊娠をさせるのは母体にもよくないと判断し本格的な同居はもうしばらく待つことにしました。

雌が２歳半近くなった1990年２月19日の朝、室内で雌が鳴いているのに気付きました。発情であると判断し、急遽ペアリングを試みました。以前と同様に雄が鼻先を突き出し雌の後に付いてまわり、雌は逃げるという行動をしましたが、以前よりは雌はそれほどいやがらず比較的おだやかでした。その日のうちにマウントが確認されましたが、交尾であったかは確認できませんでした。以後日中放飼場での同居を行いましたが、雄による雌への攻撃が激しくなり始めた為、同年５月より再び別居させました。この頃放飼場の芝も青くなり、採食量も増えたのもあり雌の腹が多少大きくなったように見受けられました。この時点で雌が妊娠している確信はありませんでしたが、７月になってから腹が横に突き出して来て、８月になり乳房が大きくなっているのに気付き最終的に妊娠と判断しました。２月のペアリング初日より起算し、出産予定日は早くて10月20日と想定しました。

９月下旬にはいりかなり腹もパンパンに張り、明日にも生まれそうな日が続きました。そして10月９日の朝、獣舎に入ったところ何処からか『フェーフェー』

出産直後の母子

と鳴く声が聞こえ、室をのぞいたところまだ身体が乾ききっていない、いま生まれたばかりといった子供がフラフラと足元も危なげに立っていました。子供は雄で、体重は6.5kgでした。一週間も立つと体重測定の為に捕獲しようとすると１ｍ近くも飛び上がり、野生の血を見せ付けました。

子供の体色は親の紫褐色とは異なり、薄い黄土色で、親が顔の中心が白いのに反し、その部分の両側が白いといった、まるで違う動物であるような感じです。

早く皆さんにお見せしたいのですが、まだ体が小さ

初めて放飼場にでた仔

く、木柵をくぐってシマウマの放飼場へいってしまうので、もう少し大きくなるまでお待ちください。しかし、ときどき運動の為に放飼場に出しています。運が良ければ猛スピードで走りまわる子供をご覧になれるかも知れません。　　（清田　義昭 Yoshiaki kiyota）

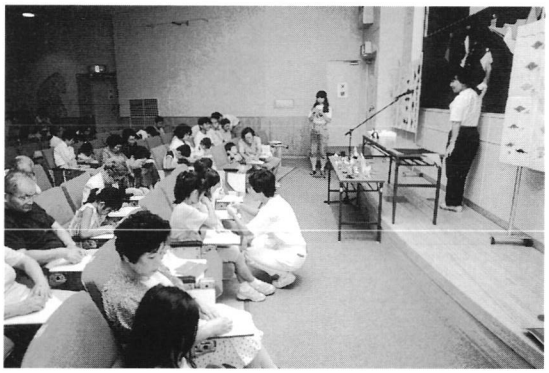
動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'90年8月1日～'91年1月31日

8月2日　ダマワラビーの仔、初めて育仔袋より外に出る
8月5日　ダチョウの雄1羽、死亡
8月9日　オランウータンのキャシディー親子と雄のジャックを初めて一緒に放飼
8月13日　イワトビペンギン1羽、死亡
　　ブラッザゲノン、繁殖
8月17日　アクシスジカ、繁殖
8月18日　セーブルアンテロープ、繁殖
8月19日　18日繁殖したセーブルアンテロープの仔、死亡

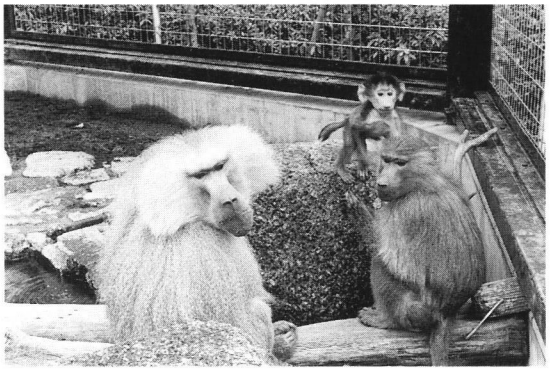
8月19日　ワタボウシパンシェ、繁殖
8月24日　イワトビペンギン、冷房室に移す
8月25日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（リスザル）
9月3日　フンボルトペンギン、換羽終了する
9月4日　子ども動物園、秋期団体指導を開始
9月5日　アカテタマリン、4頭新着
9月7日　ポト、2頭新着
9月9日　レッサーパンダ、雄1頭死亡



9月9日　「動物公園お年寄りのつどい」開催
9月11日　アクシスジカ、繁殖
9月16日　トナカイ雌の袋角、むけ始める
9月17日　ブロック研究会の予演会を行う
　　馴化施設で飼育のコロブス、繁殖
9月22日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ボンテボック）
9月24日　クロミミマーモセット、死亡
9月25日　ニューカッスル病、鶏痘の予防接種始める
9月26日　シロエリオオヅル、換羽終了する
9月27日　アメリカビーバー1頭、マガモ1羽新着
9月30日　台風接近で大雨となり、動物は早目に収容する
10月2日　ゾウガメ舎、保温を始める
10月3日　草食獣に腰麻痺予防薬の投与を始める
10月4日　レッサーパンダとカリフォルニアアシカにフィラリア予防薬を投与
10月6日　ケープペンギン産卵
10月8日　カピバラ舎に暖房を入れる

10月9日　ボンテボック、繁殖する。日本で初めてで仔は雄である
10月11日　今年生まれのホンドザルの仔に入墨と破傷風のワクチン接種を行う
10月13日　エジプトハゲワシ死亡
　　ショウガラゴ、2頭新着

10月14日　「自然と遊ぶ教室」開催
10月15日　飼育研究会を行う（講師濱吉氏）
10月19日　マントヒヒ、繁殖
10月22日　ヤケイ類にニューカッスル病と鶏痘のワクチンを接種
10月24日　モウコノウマ、繁殖
10月26日　ピグミーマーモセット、繁殖



マントヒヒの親子

モウコノウマの親子

10月27日　ゲルディーモンキー繁殖
「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ヘビクイワシ）
11月５日　オシドリとヨシガモ、検疫明けで水禽池へ移す
11月８日　ケープペンギン、１羽孵化
11月11日　「動物公園写真コンクール」表彰式及び記念講演会開催
11月13日　コモンマーモセット、繁殖
11月14日　ケープペンギンの雛、人工育雛とする
11月16日　13日に生まれたコモンマーモセット、１頭死亡
11月18日　人工育雛していたケープペンギン、死亡
11月20日　アビシニアコロブス、繁殖
11月21日　ココノオビアルマジロ、死亡
11月24日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ムフロン）
11月25日　セスジクスクスの仔、袋から顔を出す
11月27日　トラツグミ、１羽保護受けする
11月28日　キングペンギン、２羽展示
11月30日　フンボルトペンギン、展示池工事のため、水系ゾーンで展示
11月30日　台風のため動物を早目に収容する
12月１日　アクシスジカ、切った残りの角落ちる
12月２日　ボンテボックの仔の角、１cmぐらい伸びる

12月２日　「動物公園クリスマスのつどい」開催
12月４日　イワトビペンギン、死亡
12月６日　ピグミーマーモセット、繁殖
12月８日　ホオカザリヅル、死亡
12月11日　ハシビロコウ、寒くなってきたのでアジア舎内に移す
12月13日　水禽池に移していたオウギアイサ、ビーバー池にもどす
12月14日　コリデール１頭、江戸川区の動物園へ寄贈
12月18日　オオタカに環境庁のリングを装着する
12月21日　ペルーイワドリの卵、孵卵器に入れる
12月22日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（マンドリル）
12月24日　シルバールトンの雄、死亡
12月31日　アカテタマリン、繁殖
１月２日　アカコンゴウインコ、１羽孵化
１月４日　本日より開園、ゴリラ、久しぶりの観客にドラミング多し

１月６日　「新春モチつき大会」開催
１月８日　ショウガラゴ、繁殖
１月９日　ニシクロシロコロブス、死亡
１月13日　「動物公園バードウォッチング」開催
１月19日　ケープペンギン産卵
１月21日　ハワイガン、産卵
１月24日　ジェンツーペンギン、新着
１月26日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ゴリラ）

飼育よもやま話

Animal Episode

モウコノウマの３回目の繁殖

The third breeding of the Przewalski's horse

モウコノウマ（雄）が1990年10月25日に生まれました。父親は1983年３月10日、母親は1983年６月13日、どちらもドイツ（西ドイツ）の動物園で生まれたものです。この夫婦の繁殖経過は1987年１月24日に雄を出産（生後４日目から細菌性関節炎にかかり起立不能になった為、人工哺乳と治療を続け、無事成育し、現在は東京の馬事公苑で飼われています）、1987年11月９日に流産（胎仔は8.2kg）、1988年12月10日に雌を出産(現在も当園で飼育中)、1989年10月13日に流産(胎仔は6.2kg)、そして今回の繁殖になります。今までの繁殖の経過をみてみると、この母親は毎回正常に仔を生むのが難しいようで、隔回ごとに正常出産し、その間に流産をしているようです。

１回目（1987年）の出産の時は、母親と、となりの部屋にいる父親がおちつかず大暴れして、部屋の鉄の網でできたアコーディオン式の仕切りをこわしてしまいました。２回目（1988年）の出産の時は、多少暴れましたが、１回目程ではありませんでした。しかし、今回の出産では少しは興奮していましたが、ほとんど暴れることはありませんでした。その為、仔が生後８日目の時に、父、母、仔をいっしょの放飼場に出したところ、母と仔はいつも一緒に動いていました。父親が母仔に近づこうとすると、仔をかばうように、父親と仔の間にわけ入り、いつも保護していました。父親が仔に直接何かしようとしたことはありません。もっと早く３頭を一緒にしたかったのですが、仔が後足に大きな切傷があり、その治りを待っていた為、少し一緒にするのが遅くなりました。父と母は11月～１月にかけて何度も交尾しているので、今回も妊娠したと思います。元気な仔が生まれるといいのですが！

（宝川　範久　Norihisa Takaragawa）

リスザルのエサ置き棚

A feeding shelf for the squirrel monkeys

頭と口もとが黒っぽく、全体に黄色の毛皮をまとった小型のサルがここに紹介する「リスザル」です。南アメリカのアマゾンを中心に生息するこのサルは、現在動物園ではもちろん、実験動物やペットとしても世界中で飼われています。サルのなかまの中では大人の大きさの割に大きな赤ん坊を産み、複数の雌たちで子育てをするということが知られています。

さて、当園のリスザルは子ども動物園に７頭(雄２、雌５）いますが、彼らのしぐさはひとつひとつがたいへんかわいらしく、来園者の人気者です。そのしぐさというか行動の中でたいへんおもしろいことがあるのに気づきました。それを少しご披露しましょう。それは、給餌の際に見られる「エサのひょい置き行動」とでもいいましょうか。臨時のエサ置き場を自分たちで各々持つ、そんな行動です。果実や種実類、穀類といったバラエティー富んだエサを、各々好きなものからわしづかみにして、まず「棚」に置きにいくのです。棚といってもそれは天井に張り巡らされた網のつなぎ目のことで、そこが3～4cmの板状になっているので、下からひょいとエサを置くのに適しているようです。

そこに置いてはまた次のエサを取りに行き、落ち着いたところで先ほど置いた好物のエサをゆっくり取って賞味するという具合です。それを見てすっかり感心してしまいました。これなら急いでおなかに詰め込む必要もないわけで、大したケンカもせず食事の時間がとれますから。

ところで、この臨時の「棚」ですが、ひとつ盲点があります。それは下から置いた物が見えないということです。どこに何をいくつくらい置いたか、本人の記憶力がものをいうらしく、たまに私がその棚を指でさぐると、忘れ去られたミカンやリンゴを見付けることもあり、そんな時、「だーれ？これ置き忘れたのは」とおもわずサルたちに聞いてしまいたい気分になります。

（並木　美砂子　Misako Namiki）

健康管理センターから

From the Animal Health Center

パンダのドック入り

A through physical check for a lesser panda

昨年の12月のことです。レッサーパンダのハナちゃんがどうも食欲がないとの知らせでパンダ舎にいってみました。たしかに、どうもパッとしない様子で、前の日に降った雨で体が少々濡れて風邪でもひいたのかもしれません。寒い季節でもあり肺炎をおこしたら大変！他にも色々な病気が頭に浮かび、こんなときはついつい悪いほうへ悪いほうへと考えてしまいます。で、検査のため入院することになりました。

検査ぐらいで入院とは大げさな！と思われる方もいらっしゃるかもしれないので少々解説させていただきます。野生動物の場合にはその殆どが素直には言うことを聞いてくれないので、聴診器をあてることや検査用の血液を採取すること、そしてレントゲン写真を撮ることなど多くの場合に麻酔が必要になります。麻酔をかけるということは、やはりそれなりのリスクが伴うので（二度とさめなくなっては困りますから）相応の準備や機材が必要なため、大事をとって入院して検査をおこなう、いわばドック入りになったわけです。

さてハナちゃんに話を戻しますと、まずは網で捕まえてもらい、檻に入って車に乗せられ病院につれてこられました。あまりうれしくはない様子で盛んに唸ったり、檻を引っ掻いたりしておりましたが、病院で麻酔の注射を打たれてしまうと、とてもおとなしくなって（あたりまえか）まるでパンダのぬいぐるみのようです。

聴診の結果は異常なくレントゲン写真もきれいで、あとは採血した血液の検査待ちとなりました。ここでハナちゃんは麻酔終了、病室に移されて麻酔からさめた後は食事もペロリとたいらげました。

血液の検査は病院で普通、他の仕事が全部終わってから夜に行います。人間の血液検査は最近では自動的に殆どを測定してくれる機械もありますが、野生動物用にはそのような便利なものは無いので手作業の検査となります。赤血球数、白血球数、血色素量、血液総タンパク、……ＧＯＴ（これ一つ測定するのに55分かかるんですよ！）、ＧＰＴ、血糖値など測定は進みました。夜はしんしんとふけてきますが異常な値といえる検査結果はでません。異常な値が出ればむしろ診断は早くつくのですが、幸いなことに様々な項目を検査しても正常な値なので、時間はかかりましたけど「異常なし」と結論することができました。

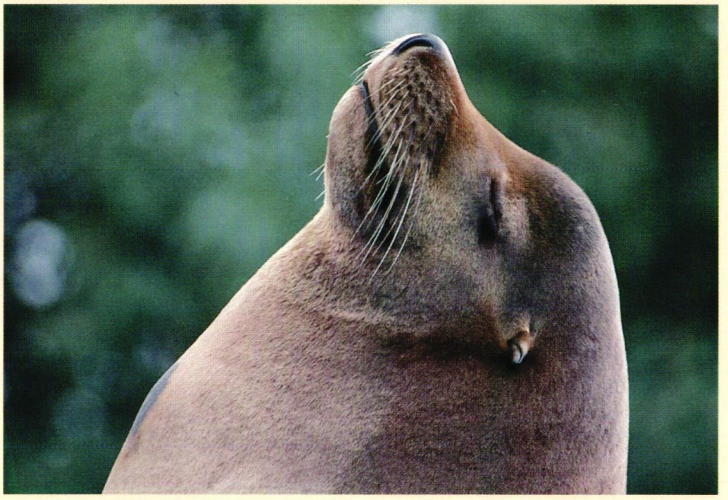
ハナちゃんは無事退院し、元気にしています。健康チェックの意味でのこのようなドック入りは中高年の人間に限らず（病室の収容能力や、時間的な余裕がゆるせば）貴重な野生動物にも時には必要かなと思います。ま、ハナちゃんが元気でめでたしめでたし。

（市川　心一　Shinichi Ichikawa）

平成３年度行事予定表

愛鳥週間記念講演会	５月	秋のＺＯＯクイズラリー	11月
羊の毛刈りと紡毛教室	５月	クリスマスのつどい	12月
動物を計る会	６月	新春特別展示	１月
サマースクール	７月	新春特別行事	１月
動物愛護標語募集	７月	バードウォッチング	１月
写真コンクール	応募は10月10日まで	ゆかいな森の音楽会	２月
動物愛護週間特別展示	９月	春のＺＯＯクイズラリー	３月
敬老の日記念行事	９月		
動物愛護週間特別講演会	９月	動物映画会	日・祭日・春、夏休み中
自然と遊ぶ教室	10月	ワンポイントウォッチング	毎月第４土曜日

くわしくは市政だよりでおしらせします。



カリフォルニアアシカ

（どうぶつこうえんニュース）
第13号（平成3年3月1日発行）

●編集　千葉市動物公園
〒260 千葉市源町280番地 ☎0472-52-1111 280 Minamoto-cho, Chiba City. JAPAN

●発行（財）千葉市動物公園協会
☎0472-52-1221